



第3回 九州森林管理局保護林管理委員会を開く



第3回保護林管理委員会の模様

2月24日に、今年度最後となる第3回目の保護林管理委員会を開きました。

当委員会は、保護林制度改正に伴い新たに設置された委員会であり、今年度は九州森林管理局管内の保護林を、6区分から3区分に再編することとしています。

昨年10月21日に開いた第1回委員会では、保護林制度の概要や制度改正の目的、及び九州森林管理局保護林再編方針案などについて審議しました。

また、12月16日には第2回委員会を開き、第1回委員会でご了承いただいた保護林再編方針に基づき、保護林再編案について審議しました。

今回の委員会では、冒頭、池田直弥九州森林管理局長から、「今回は、前回及び前々回にご審議いただいた内容を踏まえた、保護林再編の最終案をご審議い



挨拶をする池田局長

ただきたいと考えております。

また、保護林再編後の来年度にご審議いただく予定の事項についても、お示ししたいと思っております。短い時間ですが、忌憚のないご意見をお願いします」と挨拶がありました。

その後、事務局から、これまでの審議を踏まえた保護林再編の最終案、及び保護林管理委員会での来年度の審議予定事項について説明しました。

委員からは、「保護林によっては、シカの食害などにより後継樹に大きなダメージが発生している。保護林再編後は保護林の管理についても十分検討する必要がある」などの意見がありました。

その後、保護林再編の最終案とともに、各保護林の今後の管理方針を記載した、保護林管理方針書案についてもご承認いただきました。



委員会において意見を述べる各委員



これにより、九州森林管理局管内の保護林は、3区分・90箇所再編されることとなり、今後は、保護林管理方針書にもとづき、各保護林の保護・管理を行っていくこととなります。

(担当：計画課)

屋久島世界遺産地域科学委員会及びヤクシカ・ワーキンググループを開催

2月1日及び2日に、今年度2回目の屋久島世界遺産地域科学委員会及び科学委員会の作業部会であるヤクシカ・ワーキンググループ会議を鹿児島県庁などにおいて開きました。

科学委員会を開くにあたり、事務局を代表して九州森林管理局池田直弥局長から「世界遺産に登録され23年が経過し、顕著で普遍的価値を持つ遺産の保護・保存が最も重要であることには変わりないが、近年は、持続可能な発展、地域住民の参加も重視されてきており、こうした点への配慮も必要であることから、科学委員会の助言をいただきながら、良好な形で未来に引き継ぐ取り組みを行っていくために



挨拶をする池田局長

も活発な議論をお願いしたい」と挨拶がありました。

続いて、屋久島町荒木耕治町長から「本委員会の協議を通じ、屋久島町の環境の保護・保全、管理のあり方について、島づくりの考え方を提案していただくのと考えているので、しっかりと議論の成果を町政に反映させたい」との挨拶がありました。

今回の委員会では、第1回科学委員会における議論の要点を確認した後、①平成28年度モニタリング調査の中間報告②ヤクシカ対策の取組状況③世界遺産地域山岳部における利用と保護の検討状況などについて議論がなされました。

主な論議は、モニタリング調査の中間報告や山岳部における利用と保護のあり方などについてで、今回、林野庁が1999年度から継続発注している、森林生態系モニタリング調査結果の取りまとめ

報告を行ったところ、「高層層原である花之江河・小花之江河における湿原の乾燥化、陸地化の進行は明らかであり、原因を特定するとともに、今後抜本的にどう対処するのか。ヤクシカの湿原への侵入被害を防止するための、ひとつの方法として、植生保護柵設置の必要性などを考える時期であり、早急の対応が必要である」との助言がありました。

世界遺産地域山岳部の利用と保護の検討状況においては、登山道の荒廃状況などの調査結果、縄文杉周辺の再整備の報告と今後の予定などについて説明し、各委員からの助言をいただき、

その助言を参考に地域関係者と調整しながら進めることとしています。ヤクシカ・ワーキンググループでの取組状況について、矢原徹一委員長から前日に開催された、ヤクシカ・ワーキンググループ及び鹿児島県特定鳥獣保護管理検討委員会合同会議の議事内容が報告されました。

林野庁を含む4行政機関での調整を踏まえ策定された、第二種特定鳥獣管理計画においては、ヤクシカを2015年度の推定生息数2万1千頭から21年度までに約9千頭程度に減らす目標を盛り込んだ計画案を提示し意見を伺いました。

また、「生息数の調査結果で低標高域の密度は減少していると思われるが、高標高域での密度については、引き続き慎重に分析する必要がある。今後においては、山岳部や西部でどう捕獲・管理していくかが重要であり、各地域における捕獲方法の検討が必要である」などの助言があったことについて報告がなされました。

その他、屋久島森林管理署樋口浩署長から、過去の科学委員

会において、早期の駆除が必要であると指摘されていた外来種（アブラギリ）について、現在、請負契約により駆除を実施していることを報告しました。

最後に、九州地方環境事務所河原武統括自然保護企画官から「本日頂いたご提案やご指摘について事務局で整理し、対応について相談しながら進めていきたいので、引き続きご指導ご鞭撻を賜りたい」との閉会の挨拶があり、委員会を終了しました。

今後も当委員会の助言を得ながら屋久島世界遺産地域の貴重な自然環境を適正に保全・管理していくこととしています。

(担当) 計画課・保全課



屋久島世界遺産地域科学委員会の模様



ヤクシカ・ワーキンググループの模様

山の会と登山道整備

【熊本南部森林管理署】白髪岳国有林において、当署と「多様な活動の森」協定を結んでいる「白髪岳を守る山の会」と共同で、今年度2回目の白髪岳登山道整備を実施しました。

当日は天気にも恵まれ、同会々員7人と当署職員6人が参加し、霜柱や残雪が残る登山道周辺の樹名板補修や、誘導用トラロープ設置、ゴミ拾いなどを行いつつ山頂を目指しました。帰りには、植生保護柵の修理

なども行い、全員が無事下山しました。

下山後に、今後とも連携を図りながら、白髪岳の貴重な自然と、登山者の安全を守っていく



樹名板の補修を行う参加者



江藤 隆康

(福岡県朝倉市在住)

平成新山の視察では、自然災害の恐ろしさと、航空実播工による見事な緑化を目の当たりにして、日々が経過する早さを実感することができた。また、眉山における治山事業は、その規模が余りにも大きく、終わりのない工事が永遠に続くのではないかと感じられた。

この事業に携わる九州森林管理局をはじめ、長崎県の関係者の方々のご尽力に頭の下がる思いである。

国有林モニター会議に参加して

畠 永 勝男

(熊本県菊池市在住)

今回が初参加ですが、人命・財産を守るため治山事業が行われている現場を近くで見学でき、感動しました。

眉山の土質と急傾斜で、土石流が発生するのは理解できます。眉山に治山ダムが92箇所、流路工451箇所、導流堤が50箇所の実績があるなど、下流の住民の安全は、治山事業で守られているのだと思いました。

最近では、異常気象で大雨、台風等の大きな災害が発生してい

活動を継続していくことを再確認し、登山道整備を終りました。

虹の松原で除伐作業

【佐賀森林管理署】2月18日佐賀県唐津市虹の松原において、

虹の松原保護対策協議会（七不思議の会、一六会、NPO法人カンネなど）が、除伐作業を体験しました。

当日の作業には、当署職員を含め25人の参加があり、はじめに、川部静也署長より「日頃より虹の松原において、松葉かきを含めた諸活動に感謝を申し上げます。

初めての伐採体験という人もおり、受け口・追い口の説明や、ノコギリの使用方法についても熱心に聞き入っていました。除伐した箇所には光が差し込み、見違えるほど林内が明るくなりました。

参加者からは「除伐の必要性を感じた」「楽しかった」「木が少しだけだが、まだ残っている。さらには、今年4月の熊本地震と大雨による多少の土石流の発生。心配して長崎森林管理署長が翌日現場を確認に行ったと聞き、住民の安全と山（森林）の安全を守ってくれていると感謝したい。

以上のことは、近くにそびえる眉山についても同様であり、いつ崩落し、住宅地があるところまで土石流が流れ込むか心配である。特に、1972年以降眉山は大崩壊して以来、幾度となく崩落しており、先般の大雨でも山肌が削られた形跡がくつきりと見える。

今回のモニター会議で得たものを切るのは簡単だが、後が大変「年1回以上は除伐体験の企画をして欲しい」などの意見があり、参加者は充実した1日を過ごしました。



除伐作業の様子

真子 桂子

(福岡県朝倉市在住)

堰堤ができたときと普段ニュースでみていた頃は、「どうせ人工の物は自然に負ける。かえって被害を大きくする」と思っていたが、今回の視察を通じて、白々としたコンクリートのダムであっても、無いよりは良いように思えるようになった。

今回、ダムを間近に見ることができ、人々ができる限りの対策をして国土を守っているのだと知ることができた。

中学2年生が職場体験学習 ～ナイストライ事業で2校を受入～

ナイストライ事業として9月に実施した熊本市立京陵中学校につづき、2月7日から9日にかけて熊本市立北部中学校2年生4人と、2月21日から23日にかけて熊本市立井芹中学校2年生4人を受入れ、職場体験学習を実施しました。



ナイストライに参加した北部中（右）井芹中（左）の生徒たち



GPSの使い方をマスター

九州森林管理局では、今年度3校の生徒を受入れ、3日間の限られた期間の中で現場や広報の業務を体験してもらいました。（京陵中学校ナイストライの模様は広報九州10月号に掲載）

一日目のナイストライでは、北部中学校は総務課山本博課長より、井芹中学校は総務課松永眞弥課長補佐より、九州森林管理局の業務内容などについて、自分の経験などを含めて分かりやすく説明があり、その後広報の業務を体験しました。

午後からは、企画調整課宮木利浩企画官、原田美千子情報管理係長より、GPSの使い方について実技を含めて説明があり、

生徒たちは日頃使わないGPSに興味津々で使い方をマスターしていました。

2日目は、現場業務として熊本森林管理署管内の小萩園において、GPSを使った巡検業務と面積測定を体験し、面積測定では自分の目で見て予想した面積とGPSで計測した結果に一喜一憂していました。

また、井芹中の生徒は、この日行われた車両型竹チップパーのデモンストレーションを見学、実際に竹の粉砕を体験してその迫力に驚いていました。



竹チップパーを体験しました

3日目には、ナイストライで経験した感想などをまとめた、広報誌の作成を行い、レイアウトや写真の選択に真剣に取り組み、「広報誌ナイストライ」が出来上がりました。

3日間の短い期間ではありま

したが、この体験が生徒たちの今後の進路や、活動の指針になってもらえることを願いながら、ナイストライ事業を終了しました。

ナイストライ事業（職場体験学習）は、実際の職場において学習する経験がほとんどない生徒たちに対し、様々な体験活動をおして、子どもの勤労観・職業観や感謝する心などの豊かな心をほぐくみ、子どもたちの「生きる力」を育てる事を趣旨として、熊本市立中学校全校で実施されているものです。

（担当：総務課）

森林の大切さを学ぶ

【北薩森林管理署】2月25日、

NPO法人しいのきの森小床と北薩森林管理署は、2015年に協定を結んだ遊々の森「しいのきの森小床」と、隣接する民有林に設置されている「癒やしと学びの森」において、森林教室・体験活動を実施しました。

当日は、伊佐市の針持小学校、曾木小学校の児童クラブ生徒、指導員ら20人が参加、当署とNPO法人の9人が講師を勤め、森林教室・体験活動を通じて森林・林業の大切さを学びました。始めに、NPO法人の二之形



参加者全員で記念撮影

一秋理事長から開会挨拶があり、前田三文北薩森林管理署長が森内を散策しながら「植物の芽」の観察・説明を実施、紙芝居「森林からの贈り物」では、森林・林業の大切さや木材利活用について学びました。

青空の下で昼食を済ませた後、午後からは、「もっくん」やチャンチンモドキの種子を使ったキーホルダーを作成したり、空を飛ぶ種子の説明と種子の模型飛ばしに挑戦しました。

最後に、NPO法人の中谷圭三副理事長から「カブトムシの話」があり、全日程を終了しました。

参加した生徒や指導員からは、「楽しい体験だった」「身近にある森林の大切さを学べた」などの感想がありました。

再造林の低コスト化に向けて

【宮崎森林管理署】再生可能な森林資源は「植える↓育てる↓伐る↓植える」という森林サイクルを維持することで、森林資源の循環利用を図ることができま

す。
このうち「植える」という伐採後の再造林コストをいかに低く押さえるかが課題となっており、伐採と植栽を一連に実施することで再造林コストの低減化が期待できる、一貫作業システムが注目されています。

国有林では、同システムを導入して再造林の低コスト化に取り組んでいますが、当署においては民有林への普及を目的に、2月7日、宮崎県、管内市町、森林組合などの担当者（13人）を対象として、現地検討会及び



現地視察の様相



職員からの説明の様相

意見交換会を開きました。

午前中は、宮崎市田野町野崎国有林の一貫作業システムを実施している誘導伐施業箇所において、築川伸一総括森林整備官から一連作業の経緯について説明後、木材の伐採・搬出後にシ力防護ネットの設置を終えた、コンテナ苗（スギ）の植付を控えている林地の状況を見て廻りました。

午後からは、会場を田野南地区公民館に移し、築川総括森林整備官による、国有林における一貫作業システムの現状や、今後の方向性などについての説明に続き、局技術普及課内村圭一企画官による、民国連携したフォレスト活動のケーススタディ地区の取組状況についての話題提供がありました。

参加者からは、「地持経費は見てあるのか」「枝条は林外に

持ち出したのか」「かき分け程度の枝条整理で苗木の植付けは大丈夫か」「スギコンテナ苗の品種指定はあるのか」「誘導伐の伐区は斜面方向より等高線方向の方が良いのでは」「シ力防護ネットは、伐区毎に張るより隣接する立木地を含めて張った方が延長距離の削減になる」などの質問や意見が出されました。

今回の国有林での事例紹介が、所有形態や所有面積が多様な民有林においては、すぐには応用できない面もありますが、民国の関係者が意見交換を行い課題を抽出したことで、一貫作業システム普及の一步前進の契機となり、再造林の低コスト化に向けた一つの方向性を示すことができ、民有林における今後の展開が期待されます。

西表島でクリーン活動

【沖繩森林管理署】2月14日、西表島船浦地域の国有林で、クリーン活動を実施しました。

当署では、環境整備の一環として毎年クリーン活動を実施しています。

当日は、竹富町職員や地元の方々に協力していただき、当署職員も含め18人で作業に取り組みました。



ゴミ回収に汗を流す参加者

今年度も、たぐさんの漂流物が流れてきている海岸沿いの清掃を行い、1トンの土嚢袋14袋にもなるゴミを回収することができました。

回収したゴミは、ペットボトルが最も多く、他にも浮き球・発砲スチロール・プラスチック類などいろいろなゴミがあり、回収後の分別にも時間がかかるなど、強い日差しが照りつける中での、大変な作業となりましたが、すがすがしい気分で作業を終えることができました。

クリーン活動を通して、改めて環境整備の大切さを実感した1日となりました。

県職員が国有林を視察

【宮崎南部森林管理署】宮崎県山村・木材振興課の職員7人が、低コスト造林の課題である低密



視察を行う県職員

度植栽を検討するため、当署管内の林分密度試験地と低密度植栽箇所を視察されました。

林分密度試験地では、施業履歴や、ある一定の範囲であれば植栽密度にかかわらず収穫量が一定となることなどについて説明を行いました。

また、場所を移動して、大東森林事務所管内の昭和20年代に植栽された分収造林箇所を視察しました。この林分は、当時珍当たり1000本で植栽されており、低密度植栽を検討する上で参考となる林分です。

今回視察された方々からは、「今後、低コスト造林や低密度植栽を検討する上で参考になりました」などの意見があり、併せて、主伐・再造林の推進など、林業の成長産業化に向けた情報交換もあり、有意義な視察となりました。

森のセミナーを開催

【熊本南部森林管理署】当署において、地域住民約20人が参加して、本年度3回目の「森のセミナー」を開きました。

講師に、環境省希少野生動物種保存推進員の乙益正隆氏を迎え、「西年にまつわる草木話」と題して講話がありました。

講話では、「トリ」の名前がついた植物14種について、昭和の時代から現在までの草木と生活にまつわるエピソードや、ユーモアを交えた話を参加者は熱心に聞き入っていました。

また、当署職員による「写真で見る観察会」及び、共催者である球磨地域振興局の村上香代参事から「熊本県指定の希少野生動物植物について」の説明がありました。



シノブ玉を作る参加者

午後からは、乙益先生や川邊恭右氏の指導のもと、着生のシノブ植物シノブを使った、「シノブ玉」作りの実習があり、参加者は初めて作る「シノブ玉」に悪戦苦闘しながらも、個性的な作品ができあがりました。

今回作成した「シノブ玉」は、5月頃には発芽し緑に包まれるとのことであり、参加者の皆さんは「シノブ玉」の芽生えを楽しみに解散しました。

熱戦！愛林駅伝大会

【熊本森林管理署】2月18日、熊本県山都町において、青少年の自然愛護の心を育て、緑豊かな



九州の暖帯の山地で普通に見られ、雌雄異株の落葉高木です。名前の通り皮をかじると驚くほどの苦み（結晶性苦味質）があります。この苦みからニガキの名前となっています。

この苦みを利用して健胃散として利用され、ご存じの太田胃散などにも使用されています。しかし伝統的な漢方方剤としては使用されることはないようです。

葉は奇数羽状複葉、互生、小葉は5〜6対、長卵形あるいは

なふるさと作りへの意識の高揚をはかることを目的に、本年度も愛林駅伝競走大会が開かれました。

今回の大会には、山都町をはじめ近隣の6中学校16チームが



一斉にスタートする16チーム

112 ニガキ (ニガキ科)

卵状被針形で先端は次第に狭くなって鋭く尖り、縁には鋸歯があります。この鋸歯（低い鈍鋸歯）を覚えることでニガキの同定ができます。

夏には梢に総状に黄緑色の小花を付け短く広い円錐花序を作ります。花の観察ができたなら雌花を見ると両生花に見えますが、雄しべは不完全で花粉（葯）をつけることはありません。

樹木園の西側、駐車場横、中間に高さ3m前後の雄株のニガキがあります。



参加し、矢部地区中心部を巡回する5区間14・3kmで熱戦が繰り広げられました。

当日は天候にも恵まれ、沿道からの盛んな声援を受けてゴールを目指し、今大会では「益城中A」が優勝しました。

当駅伝は1956年に始まり、今回で62回を数えます。

お悔やみ申し上げます。

楠本 哲也 様
熊本南部森林管理署勤務、
農林水産技官 楠本哲也様は、
2月5日ご逝去されました。
(享年58歳)



最近、マスク姿の人をよく見かけるようになりました▼そう言えば、またインフルエンザが流行ってきたからかな？と思っ
ていたら、それだけではないようです▼この時期、目はしょぼしょぼ、鼻はずるずる、喉はいがいが、そうです花粉症の季節です▼日本気象協会の予想では九州全体の飛散量は、昨年の2・7倍、特に飛散の多い大分県では昨シーズンの4倍、福岡県で同1・9倍になる見込みとのこととです▼私は今のところ花粉症ではないようですが、花粉症は10人の内3〜4人が発症するそう
で、治療法には、ステロイドや内服薬、舌下免疫療法など、
症状に応じた治療法もあるそうです▼根本的な対策として、林野庁では、小花粉スギ137品種、無花粉スギ2品種、小花粉ヒノキ56品種を開発しており、九州森林管理局では、花粉症対策苗木などの需要拡大に取り組んでいます（詳しくは広報九州暖帯林の12頁に掲載）▼この取り組みが進んでいけば、花粉症の方には、少なくともスギ・ヒノキ花粉から解放されることでしょう。
(X)